

Rugby football Player's Mentality of Korean People and Waseda University club

1K10C077-7 呉 泰誠

指導教員 主査 寒川 恒夫先生 副査 島田 陽一先生

【第一章】

世界には様々な「精神論」が存在する。「精神論」はどこで発揮され、何をもたらしているのだろうか。「精神論」は多くのパターンが語られており、そこに正解を断定することは困難である。しかし、少なからず精神は人間の生活に大きく影響しているのは間違いない。特に表れている世界が「スポーツ界」である。スポーツは本気の度合いにより全く違う世界となる。例えば、小学校のサッカーとナショナルチームのサッカーではスポーツに対する熱意や情熱、姿勢などが別物になり環境や取り囲まれる空気すら変わってくる。その空気とは一流が作り出した目に見えない「強い気持ち」が現れているのではないかと私は考える。その「気持ち」とはまさしく「精神」の表れではないだろうか。私は「精神」はスポーツとどのように関わり、どういった影響を及ぼすのかを考察する。

【第二章】

第二章では、精神力はどこで培われ、何を及ぼすのかを在日韓国・朝鮮人の日常から考察している。精神は手にとって見えるものではないため、どのようにして鍛えられるのか、どのようにして心身に影響があるかを考察する。二章では『新聞記者が送る日本と朝鮮半島 100年の歴史 朝日新聞社「百年の明日ニッポンとコリア」』と『歴史の転換と民族問題』という二つの著書を元に、民族心から得られる精神力の強さについて記述している。長い植民地時代から脱出した在日韓国・朝鮮人の反日思想からくるモチベーションは、歴史的背景からくるものであり、現代では親日思想へと変わりモチベーションも変わってきている。つまり、人間は精神状況に応じて目的やモチベーションは変わることが分かる。

【第三章】

三章では「精神のスポーツへの影響」の事例を、早稲田大学ラグビー蹴球部を題材に記述している。早稲

田大学ラグビー部には多くの伝統と精神論が存在しており、精神のスポーツへの影響がよく見てとれる。早稲田大学ラグビー部の強さの根底には歴史と魂が存在している。歴史と魂とは早稲田大学ラグビー部が現代までに至って積み重ねてきた功績であり、プライドのようなものである。その代表的なものが「荒ぶる」と「赤黒」という存在だ。「荒ぶる」とは全国大学ラグビーフットボール選手権大会で一位になった時でしか歌えない第二部歌である。「荒ぶる」を歌うために部員一同は日々の練習で心身を鍛錬する。「赤黒」とは赤と黒で構成される早稲田ラグビー部のユニフォームのことを指している。そのユニフォームに憧れて入部したものは数知れず、全ての歴史が詰まった伝統あるユニフォームである。この二つを手に入れるために負けられない好敵手は多い。その好敵手との対戦で数々の名勝負を繰り広げ、結果を左右させていたのは「荒ぶる」、「赤黒」などの伝統からくる精神力であるのは間違いない。精神の状況によりパフォーマンスや結果は変わってくる。

【第四章】

四章では精神の応用による、スポーツへの影響について研究している。スポーツ選手にはメンタルコントロールは必須である。心身相関という言葉通りに精神と身体は密接に関係しており、それはアスリートのパフォーマンスにも影響する。そのため精神を上手くコントロールすることによりパフォーマンス向上は臨める。その題材として心身のストレス対処と「覚醒水準」のコントロールから考察する。メンタルコントロールによりアスリートはパフォーマンスを向上させることができる。

【第五章】

五章では朝鮮民族と早稲田大学ラグビー蹴球部の事例から研究した結果、スポーツ、アスリートと精神は密接に関係している。